

JR 牟礼駅から歩いて15分ほどのところに、矢筒山というこ
んもりとした小山があります。標高は567メートルで、周囲の
水田からの比高は50メートルくらいあります。地形は、東北
東—西南西方向の軸を持つ楕円状の高まりで、この軸を境に約
20°前後の緩傾斜の南側斜面と30°～40°以上の急傾斜の北側
斜面に分けられます。山麓には飯綱病院や福祉施設などが建
ち、山頂には太平洋戦争の戦没者慰霊碑が建てられています。

この山は、地元で城山とも呼ばれており、中世の時代には
おたのしょうしまづし
太田 莊 島津氏が築いた山城があったとされています。今も内
堀、外堀や三日月堀などの跡が残るほか、南麓では城下の館跡
も発掘されました。当時は自然の地形を生かした堅固な山城で
あったと想像されています⁷⁾。江戸時代になって城は廃止され
ましたが、矢筒山は北国街道牟礼宿のそばにある身近な山とし
て、人々の暮らしとともに利用されてきました。日当りのよい
南斜面には畑が広がり、戦前には山頂近くまで麦畑が続いてい
たということです。畑の耕作は昭和40年代前半に至るまで続
きましたが、その後次第に利用されなくなり、今では高さ16
メートルに達するケヤキやカラマツなどが茂る半自然林になっ
ています⁸⁾。平成9年（1997）には、長野県の郷土環境保全
地域にも指定されました。

小さな子どもでも気軽に登れる山ですが、四季を通じてたく
さんの種類の植物を見ることができます。春は北東側の斜面に